

## 1986MRA国際会議 国境をこえた 思いやりの心を



An international  
**Moral Re-Armament**  
Action for

今年で第10回目を迎えるMRA国際会議が、「国境をこえた思いやりの心を」というメインテーマで開催された。5月2日より4日間の日程で行われた小田原会議（於小田原アジアセンター）を皮切りに、箱根、関西、東京、埼玉などで多くの会合が開かれた。海外はフィリピン、韓国、インド、中華民国、オーストラリア、カナダ、アメリカ、イギリス、フランス、オランダから27名の代表が参加した。円高が急激に進行する最中、各地で海外代表を囲み、貿易摩擦や援助問題等のホットなテーマについてリアルタイムな対話がなされた。政変の興奮さめやらぬフィリピンからは3名が参加し、今回の無血革命を可能にしたピープルズパワーの背景や、フィリピンの今後の展望などを語ってくれた。

好評だった国際ダイアログ「世界の必要にこたえる産業の役割」を中心に、各地での発言をお伝えしたい。

●世界の必要にこたえる産業の役割  
●アジアの課題と希望  
●生きがいを与える家庭・教育

## ハイテク時代のモラル

MRA国際会議(小田原)のハイライトとして行われた国際ダイアログ「世界の必要にこたえる産業の役割」には、今回パネラーとして松岡紀雄氏(松下電器貿易総合企画室東京駐在)、山元順雄氏(三菱総合研究所企画部次長)の2氏を日本から、そしてジョージ・シャーマン氏(アメリカンバンク副社長・アメリカ)、ピーター・ヒンツェン氏(日米欧財界人円卓会議コーディネーター、オランダ)を海外からお招きした。コーディネーターは国際MRA日本協会専務理事、藤田幸久および同参与、ジェフリー・クレイグが務めた。パネラー間の率直な意見の交換や、会場との交流を通じて、今日の貿易摩擦問題に対する日米欧のかなり本音の部分が披露されたと言える。その様子を要約してお伝えしたい。



ジョージ・シャーマン  
(米国)

# 世界の必要にこたえる産業の役割

## プレゼンテーション

### 日米間にルールの確立を

ジョージ・シャーマン

日本人とアメリカ人の共通項を4つ挙げてみると、

(1) ビジネスに対する非常に積極的な姿勢

(2) 自動車が好きである

(3) 有事の際には、困っている人々を助けるという心の暖かさ

余裕を持っている

(4) スポーツ好きである

最後にスポーツといったが、スポーツは同じルールに乗っかってプレイするということが大切である。日本の経済関係にも同じことが言える。

(ルールの尊重)アメリカは、仮に雇用や産業がおびやかされることがあっても日本製品に対する門戸を開放しておく必要があると信ずる。同じことを日本にも求めたい。アメリカ



松岡紀雄



ピーター・ヒンツェン  
(オランダ)

カ製品やサービスのために打撃を受ける産業があっても、門戸を開放しておくという同じルールを守ってほしい。そのためには、誰が正しいかではなく、何が正しいのかという発想が必要である。

次に、保護貿易主義や貿易障壁、関税障壁を設けることは決してアメリカの利益にはならないということ

を4つの例を挙げて言いたい。

(1) アメリカが輸入規制をするとアメリカ製品は他国のマーケットからしめ出されるだろう。

(2) アメリカは輸出よりも輸入に

よって得るものが多い。  
(3) アメリカの労働者や議員達の貿易問題に対する了見が非常に狭い。

## コーディネーター



藤田幸久



ジェフリー・クレイグ(英国)



山元順雄

(4) 関税を引き上げるといふことは、関税によって保護されていた品物の価格を引き上げるといふことにつながる。

外国製品がアメリカ市場を席巻してしまうかもしれないとの恐れを感じるのであれば、品質と価格とサービスという分野でアメリカは競争力をつけていくべきである。

私の心配していることは、アメリカの上下両院の、今まで自由貿易支持派であったかなり有力な議員達が懐疑心を抱きはじめてきていることだ。今年の選挙で上下両院の有力な議員が選挙されることもあり、保護貿易主義に対して今まで抵抗してきた牙城も、政治上の便宜におし流されるということもありかねない。

日本の対米輸出を規制することが解決にはならない。日本の内需拡大と輸入促進が大切である。日本は弱い弱な構造を持っている産業(例えば農業や住宅)を保護するのをやめて、生産をより前向きな産業に移していくべきだ。それには同じルールでやるということが大切だ。仮に日本が斜陽産業を保護するということを続ければ、アメリカも同じことをするのである。それは両国、そして両国民にとって不幸な事態だ。

## 国際的「コミュニティ」 ケーシジョン

松岡紀雄

サミットでの話題の中心は日本。貿易経済戦争といわれる現況を残念に思う。私はこのことを人類の長い歴史の中の問題ととらえてアプロチしてみたい。歴史的に見て一つの国や民族が世界、或いは広汎な地域を永久に制覇したということはなかった。確かに、日本は現在強大であると言えるが、長い歴史から見ればほんのヒトコマにすぎない。つまり現在の日本の経済的繁栄は一時的なものである。かつては、その役割をオランダ、イギリス、ドイツ、アメリカが果してきた。現在、たまたま日本という役者が産業貿易という分野で主役を演じている。次は違う役者が登場してくることだろう。現にラジオやテレビ生産の主役は日本から他の国へ移りつつある。日本だけがどん欲であるというのは間違いである。

日本人が弱いもの一つに国際的コミュニティションがある。平和のために必要なのは軍事力ではなく国際的コミュニティションであると考える。

## 三つの文化の

### 調和

ピーター・ヒンツェン

自由貿易というヨーロッパで発生したゲームは、アメリカで完成され、今や日本がその勝者である。全く違った三つの文化によるゲームである。○アメリカの文化は自由と個人主義に重点をおいている。○ヨーロッパの文化は長い階級闘争の歴史を体験してきた。できればそれを回避したいと思っている。○日本の民族は非常に勇敢である。一八六八年以来、西洋を追いつづけていに克服して勝ちつつある。

この三つの文化をすてさることはできない。調和、或いは和解をするということは可能である。それがMRAの原理でもある。

日本人はさまざまな理由をつけて、ヨーロッパの人々が怠惰でストライキ好き、甘えているし傲慢であると考えているようだ。しかし、ヨーロッパには二億七千万人の巨大な市場があるし、非常に有能な科学者や経験をつんだ技術者が沢山いる。それに比較してアメリカは二億三千万人、日本は一億二千万人。ヨーロッパの国際競争力が弱いのはEC諸

国間のナシヨナリズムに原因がある。その結果、ヨーロッパで無駄に使われるお金は年間五百億ドル、不必要なコストの上昇が10%。もち論、これを改善することは可能であり、ヨーロッパ人はその決意を持っている。

日本が非難されることの一つに、日本市場への参入がむずかしいということがあげられる。日本の総輸入の四分の一が完成品である。この世界不況を解決するのにナシヨナリスティックな方法ではだめだ。一緒に行動しなければならぬ。フィリップス社社長のデッカー氏は言う。「我々はマルチナシヨナルな解決法を見い出さなければならぬ。たとえば合併事業や日本の海外直接投資によって日本の経営技術と地元労働力や技能との調和が可能である」。「先進諸国間の高度技術の基準化が必要である。基準化が行なわれないと消費者にとって高くついてしまうし、長期的にはメーカーにとって有害がある。自由貿易のある程度の修正(誘導された自由貿易)が必要である」。

# 自由社会への

## 日本の貢献

山元順雄

米産業競争委員会報告によると「今日では、20年前に比べ輸出入のGNPに占める割合は二倍になっている。我が国の工業製品の5分の1近くは輸出され、国産品の70%は外国からの輸入品と競争している。簡単にいえば米国には真の国内経済はもはやなくなつたのだ。日本についても同じことが言えるかも知れない。

「米国は、現在二正面作戦を戦っている。軍事的にはソ連と、経済的には日本」とは、アメリカ人の好むセリフである。そして、だからたいへんなのだという。さらに、最近の米国の感情論は、対米戦で負けた日本が、経済力で復しゅうしようとして現在の体制を取っていると極言する有様である。確かに現在の日本は与えられた条件を最大限に活かすことのできる体制を作り上げたといえるだろう。しかし、それは、戦後の荒廢のなかで海外領土を失い、大量の外地からの引上げ者を抱え、生存を賭けた選択を迫られた結果なのである。世界は、その時すでに、東西対立の場となつていた。当時、社会

主義に与した人々は平等な社会を強調しその結果としての成功例を社会主義圏に見ることができると主張していた。その後の経過はいうまでもないが、その時、企業経営者は正体不明の社会主義体制の特徴を、企業経営のなかに取入れようとした。労働者の実質的な経営参加、労働者の意見を尊重した現場の生産システムの導入などである。その結果、世界にも例を見ない、賃金の上下格差の少ない労使協調の企業社会ができたのである。苦肉の策であつた。これが、非常に効を奏し、労働者の積極的な企業活動への参加をうみだしたのである。これにより、日本が自由社会の一員として留まり、大きな貢献をしているともいえる。

競争力は、それ自体目的ではなく、目的のための手段である。それをすべての分野でもつ必要はない。競争力をもつという事は、勝者がすべてをさらうゲームではない。すべての国がその貿易相手国の経済成長から恩恵を受けるものでなければならぬ。

実質的所得をへらして競争することとは、目的ではない。既得権益を維持しながら、ますます競争が激化する世界環境のなかで、高い生活水準を守りた

である。イノベーションが、経済成長の源泉である。その基礎は、技術革新であり発展途上国に対する技術移転である。国内でも産業の盛衰はあり、企業間競争、摩擦はある。今日、国家、政府、企業、組織、国民、市民、企業組織人、人間としての個人のありかたが問われている。本来、別々の役割を待たすべきこれらのものが、献身、ロイヤリティー、忠誠心というようなもので一本の糸につながつた状態には自由がない。

### 日本のプライド

#### ジェフリー・クレイグ

プライドというものには2つの様相があつて、良い方向に働けばよいが、かつての大英帝国が経済的・工業的にも強かつた頃、高すぎるプライドとごう慢さというものを持つたがゆえの結果というもの、又明らかである。

果して日本が同じ轍をふまないと言えるだろうか。過去100年間にわたり日本は実に様々な技術や考え方といったものを取り入れ、それらを発展させてきた。現在、日本が技術的にも工業的にも世界のトップの地位にいることは確かである。しかし、そのプライドというものを間違つた方向に進ませないためには世界的規模でのより良い協力の方法というものを見つけなければならぬ。

### 御案内

(社)国際MRA日本協会は、倫理性と調和をもつた世界作りのため、世界のMRAチームとの連繋のもと諸般の活動を行つております。毎年開催される国際MRA会議もその一環であり相互理解と信頼の絆は年々強まっています。他にも人材育成のための研修生の海外派遣、研究会、講演会の開催等々、日本人の「心の開国」を推し進めるために活動しています。ぜひこの活動にお加わり下さい。御入会下さつた方にはニュース初め各種会合の御案内をさせて頂きます。

#### 一、会費

##### (一) 正会員

個人 年額 三〇〇〇円  
法人 年額 五〇〇〇円

##### (二) 賛助会員

個人 一〇〇〇円以上  
法人 五〇〇〇円以上  
(共に年額)

#### 一、振込先

富士銀行動坂支店

(普) 九九一八九二

住友銀行上野支店

(普) 二五四九三七

口座名 社団法人国際MRA  
日本協会

#### 一、郵便振替口座

東京八一三八二八九

## 相手の立場に 立って考える

**ヒンツェン** いわゆる先進工業国といわれる国々がすべての問題を技術と組織力で解決しようとしているところに間違いがあるのではないかと途上国との関係にしても、社内の従業員との関係にしても、態度、接し方というものが大切だと思う。相手の立場に立って考えるということ、先進国が途上国に対して何かしたいと考えたならば途上国の人々の考えや希望を充分に考慮して反映させることが必要だ。善意で出発した合併事業が協議、対話の不足で失敗したケースは数多い。

**松岡** 途上国の産業に活力をつける上で重要なことは、金銭的な援助をするだけでなく、途上国側の製品を日本やアメリカがもっと買うということだ。途上国の輸出用完成品の六割をアメリカ、約三割をヨーロッパ、一割弱を日本が輸入している。この点を日本は反省し、そして努力すべきだと思う。一方、途上国側にお願

## アメリカのビジネスは短期決戦型

いて有能な人材を産業の分野にもっと活用するということだ。  
**シャーマン** 人事関係の仕事は30年間やって得た教訓がある。人間の生み出した問題の解決はお金や技術的な工夫、或いは論理でもできないということだ。人それぞれの感じ方というものがあある限り、どちらの言い分が正しいといった議論はむずかしいということを買易大国である日本の方々に言いたい。松岡さんの言われる歴史的な観点というものはそれなりに受けとめたい。しかし、現状というものはどうするのか。現在の問題ということに関するれば、アメリカの自動車産業の人達や政治家、それから一般の国民は日米のルールが同じではないという認識を持っている。歴史的展望は正しいかも知れないが、それにこだわっていると日米両国が死んでしまうということもあるかも知れない。ヒンツェンさんから文化の違いという話が出たが、日米の文化の違いについて日本の方はあまり知っていないのではないか。文化の違いということで典型的な例をあげると、日本では長期的に物事を考える、計画するという伝統がある。

だから当面の結果というものには多少目をつぶることもあるだろう。不幸にしてということになるかもしれないが、アメリカのビジネスは短期決戦型である。実績が上がらなければすぐクビというのがアメリカのビジネスだ。それから、議員達も選挙が日本より頻繁にあるという意味では彼らの命も短い。日米両国間で現実的な解決策を模索するならばこういう構造上、文化上の違いを認識すべきだ。

**山元** 前川レポートに対する評価はさまざまである。日本国内では「前川レポートの主旨は大変よろしい。しかしながら、あのレポートに書いてあることをすぐやりますよと対外的に約束するのは間違いである、或いは時期尚早である」というような態度をとりがちである。これはある人に言わせると、徳川幕府が日本を開国する時に、ペリーの黒船にひきのぼしを計ってとった態度とまったく同じである。百数十年たっても我々のやり方はたいして変わっていない。そしてそれを外から指摘されないと気付かないということも問題だろう。

**松岡** 日本人の多くは、フェアでありたい、少なくとも世界の人々から日本人がビジネスの上ではあれフェアではないという批判は絶対に受けたくないというプライドを強く持っている。ただ、今日の議論のなかでひとつ見落されていることがあると思う。スポーツのように同じルールでやらなければならないと欧米の方は言われるが、そのことにはまったく異存はない。しかし、自国内ではそのルールでいいかも知れないが、それが国際的に果して通用するのだろうかという疑問を一度も持ったことがあるのかと問いかけたい。例えば、日米間のカラーテレビの問題は十五、六年間解決を見ていない。原因はいろいろある。しかし、最も重要なことは、アメリカ側が新しい法律を作ってそれを過去にさかのぼって適用させるということが数多くあるということだ。つまりビジネスのルールでいったんよしとしてお互いにやったことをあとから法律を変えてそれは間違っていたというようにすることをやる。これは私達の間でどう考えてもフェアとは思えない。

現在、東大の本間先生を座長として何がフェアなのかという国際的な認識の研究をやっている。欧米の人々はそのようなことを一度たりとも考えたことがあるだろうか。

**シャーマン** 貿易というのはやはり相手があって成立するもので、どんなに理屈をこねたり、正しい理論を押しつけても相手が納得しなければ何もならないという気がする。アメリカの国民や労働者達に正義というものをつきつけても納得させられなければダメだ。

**山元** 日本市場の閉鎖性ということに関して違ったサイドから述べてみたい。私の会社を見学に来られる外国の方々に私はこう言っている。「本気で日本で商売をやるのなら、まず日本語でやってほしい。それから日本向けの製品でないと売れません。日本独特の市場メカニズムというものを勉強してほしい。文化の違いということとは確かにあるからいいビジネスパートナーというものをしっかりと頭に描いてきてほしい。」ところが、こういうことを配慮している人にはめったに会えない。シャーマンさんが言うようにやはり短期決戦型で半年後、一年後の実績ということを言う。その点ドイツやオランダなどの対応は違うようである。

## 正直さを基盤とした組織づくり

**ヒンツェン** 確かに日本語を学んだら、日本を理解する努力を欧米はもつとすべきだ。日本人の努力に比べて不足している。それから最近の日本の関税や非関税障壁を軽減しようとする努力も認める。しかし、外国製品を買う努力というものにはまひとつ欠けていると言わざるを得ない。ヨーロッパ、アメリカも日本市場に対する努力が必要だが、日本も流通機構の改善等の努力をしてほしい。やはり事実、現実からスタートすべきだろう。正直であることが大切だ。現在の混乱は正直さの欠如と相手ばかりを非難するという態度に原因があると思う。特に欧米にそういうことが言えると思う。一緒にやっていける新しい方法が必要だ。本当の友人になりうる国際的な人、集まりということを基盤とした組織、そしてその組織を通じて世界的なコンセンサスをうるプロセスを作ることができないだろうか。日本が得意とするコンセンサスというものを世界に広めることも可能である。

1986年7月12日—8月31日

スイス コー

## MRA世界大会のご案内

テーマ

新しい世界のために — コーの果たしてきた役割と明日への展望

プログラム

7/25~8/2 “ヤングフォーラム”

8/5 ~8/12 対立から融和へ

8/25~8/31 “人々の必要を満たす産業と経済の役割”

1946 40 1986

40周年  
CAUX

### 参加者の言葉

コーではたった3日間の生活であったが、マウンテンハウスのすばらしさ、レマン湖の美しさ、緑の豊かさ、自然の尊さ、人間の偉大さを肌で感じた。同時にMRAの「絶対正直」「絶対無私」「絶対純潔」「絶対愛」の4つの精神に触れて、己の未熟さを痛感するとともに人間のふれ合いに国境はなく、言葉や肌や宗教や文化に違いはあっても心は一つだということを学んだ。私の生活信条にMRAの4つの精神を加え「心の建設」の完成におけ、日々努力してすばらしい人生にしたいと考えている。心の財産を得た貴重な体験であった。

眼下にレマン湖を望む景勝の地、スイスのコーで開かれるMRA世界大会には、日本からも毎年多数の方々が参加されますが、今年も100名近くの方々が参加される予定です。

詳細は事務局までお問い合わせ下さい。(03)821-3737代

### ソウルでの体験

#### 歴史をわかちあう

川口昌宏（日本大学教授）

十三年前、人生の転機を感じた私は妻とソウルへと行き、一ヶ月間をあちらで過ごしました。その時、ソウル大学の若い同僚がこんなことを言いました。「日本は韓国を侵略した」と。そこで私は「あれは軍部がやったんだ」と言い返しました。彼は私に聞きました。「日本の兵隊は日本人ではないのか？」私には返す言葉がありませんでした。

ある日郊外にハイキングした時、道中のバスの中である青年と英語で話しをしていました。すると先ほどから私達に大変きつい視線を送っていた中年の男が、その青年を非常に激しくそしてきびしく叱ったのでした。一体何ごとかと言わずねると、中年の男は青年にこう言っていたのです。「お前は今日が何の日か忘れたのか。光復節（韓国の独立記念日、八月十五日、日本の終戦記念日）ではないのか。韓国が日本の植民地支配から解放された日に日本人と英語で話しを

するとは何事か。その日本人に韓国語で話しをさせろ。」

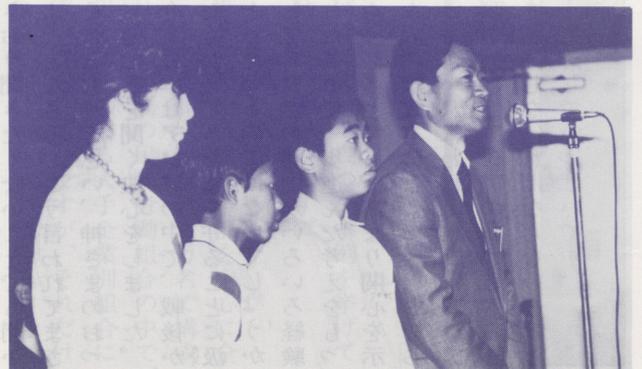
相手の本当の痛みというものが分らなかった私は、「英語はいまや世界共通語であるし、私は韓国語が出来ない。何がいけないんだ」と言いました。すると中年の男はこう言いました。「私のおじは日本人に連行されて虐殺された」と。

その日から私は、街の中で顔を上げて歩けなくなりました。それまでは回りの人はとても親切だしとても楽しく暮らしていたのですが、ひよっとしたら韓国の皆さんの心の中に、そういうことがあるが、普段はだまっているのではないかと思つたからです。勿論、来る前にはこちらで色々なことがあるかも知れないとは考えてはいました。自分は隣の国のことを何も知らないから行くんだと。しかし、それが現実となつて自分自身が問いつめられるという状況に直面して、それでは君はどうするのかと問わ

れているように思いました。

最初私は、あまり人の来ない国にせっかく来たのにそんなことを言われるなら明日帰るとまで考えました。しかし、歴史というものを、韓国の人達と共に現実にあつたものとしてわかちあわなければ、対等なそれから先の関係というのは持ちえないということに気がつきふみとどまったのです。過去に起こつた問題を自分のものとして取りくむというやり方が正しいんだと思うようになったのでした。

●壇上で語る川口さん御一家



### 小田原市長のメッセージ



本日より「国境をこえた思いやりの心を」というテーマで小田原会議が始まります。社会生活を営む上で人間関係での思いやりが一番大切なことではないかと思

います。今日のように、様々な事件がめまぐるしく起つている世界の中で、主義主張の異なる人と人との国境をこえた思いやりの心を持つということは大変難かしいことかも知れません。しかし、この様な時にこそお互いに理解しあう思いやりの心が必要であると思つています。私は、本日の国際会議をはじめ皆様の普段の地道な努力が世界の人々の意識をめざめさせ、やがては恒久平和を実現することと確信しております。

●写真は代読する和田小田原市助役

# 世界の繁栄に役立つ企業に

今回、初めてMRAの会議に参加して感じましたことは、日常私共の会社でやっていることと非常に似たことがMRAの会議で討議されているということを知り、大へん驚いたということとです。キャノンは五十年前に創業されました。現在、三万四千人の企業となり、そのうち一万一千人が外国人の社員です。年間九千五百億円の売り上げがあります。

光正沼 (キャノン)

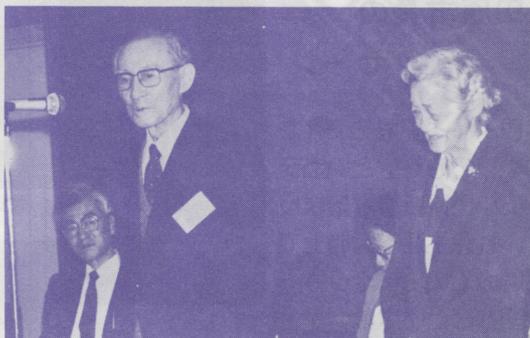
一九七五年に第一次オイルショックの影響により、キャノンは経営危機に陥りました。その時に経営陣が大変反省しまして、二度とこんなことにならないようにどうしたらよいかとディスカッションして、結論として世界の繁栄と人類の幸福に役立つ本当の意味での優良企業になろうという目標を打ち出しました。それまではキャノングループだけの繁栄が達成されたらそれでよしとしていたわけです。世界のためにといいことを具体的に言いますと、メーカーとして本当に消費者のお役に立



つ商品を作るその過程において、雇用の拡大を計っていくということが企業として出来る一番の社会的な貢献ではないかということとです。ただ製品を売るだけでなく、外国で出来るだけ多くの工場を作って、雇用を増大し、税金を取め輸出もし、役に立つその国の企業になりきってその国の発展につくすということに至る命令として七十六年以来やってきています。絶対ウソはつかないということとを会社の信条としてやってきています。

つ商品を作るその過程において、雇用の拡大を計っていくということが企業として出来る一番の社会的な貢献ではないかということとです。ただ製品を売るだけでなく、外国で出来るだけ多くの工場を作って、雇用を増大し、税金を取め輸出もし、役に立つその国の企業になりきってその国の発展につくすということに至る命令として七十六年以来やってきています。絶対ウソはつかないということとを会社の信条としてやってきています。

## 病気になって考えたこと



相馬 恵胤

最近、たいへんひどい病気をして大きな手術をしました。さすがにこのままたちなおれるかわからないと思ったとき鏡を見ると、死に神がついたような顔をしていました。そこで生涯のチームメイトであり、いつも看病をしてくれる妻にウソをついたまま死んでいくのはあまり正しいことではないと考えて、せめて正直になることにしました。するとだんだん元気になって、食欲もでてきました。

先日ノルウェーから古い友人がきて泊まってくれました。「神さまというのは決してわれわれを見捨てないときおり聞きたくないことでも聞かせようとなさる。」こう言われてまさにそのとおりの思い、神さまのおっしゃることを聞く決心をしました。今、日本はアジアの中で、戦後からたくわえてきた富を守ることに汲汲としていないのではないだろうか。そしてアジアの諸国がいろいろ経験されたことで一歩進んだ考えをもつてらっしゃっても、あまり関心を示さないのは日本にとって大きなまちがいです。われわれは謙虚にアジアに耳を傾け、アジアのおっしゃることを勉強しなければならぬなあという気持ちでいっぱいです。

# 神の計画と人民の力

ダンテ・カルマ（フィリピン）

この二月にフィリピンで起こった革命は、我々が計画したのでも、軍人のしわざでもなく、いわば神の計画であったといえると思います。あの場、実際に居合わせなかつた人には、あれが正に神の力であったのだということを信じられないかもしれせん。あれは神が一人一人のフィリピン人に「集結せよ！自ら人間バリケードを築け！」と呼びかけているようでした。マルコスに反旗をひるがえした軍人グループとマルコスに忠誠を誓う軍人達との真っ只中に民衆が立ちほだかつたわけです。これが「人民の力」と呼ばれているもので、正に神の呼びかけ、つまり私達が然るべき行動を取れるよう一人一人の良心に鋭い働きかけをしたのです。

世界中の皆さんがフィリピンとフィリピンの人々に関心を抱き、心配し、そして祈って下さったことを、この場を借りて御礼申し上げます。

では、この無血革命が終わつた今、我々は今回の教訓を活かして、これからどう対処していけば、いいでしょうか？私達が信仰を持ち続ける限り、今回の革命を成功させてくれた神が私達を見捨てることもなければ、

日本や他の国々がフィリピンを見殺しにすることも無いと思います。

今フィリピンは幾多の難問をかかえています。第一は経済問題で、飢餓の克服と、産業増大による雇用拡大が課題です。第二の難問は共産勢力の反乱です。

日本を初めとする近隣諸国にお願いしたいことは、搾取ではなく信頼と友好に基いた関係を継続してほしいということです。対外的にそうした関係があれば、私達は外部からの脅威を恐れることなく、国内の問題に集中することができるようになります。

フィリピンに今最も必要なことは強い道義基盤の再建であります。皆様の一層のお力添えと祈りを期待しています。

世界中の人々をテレビに釘づけにしたフィリピンからは三人の参加者があつた。センセイシヨナルに取り扱われた歴史の断片的な一コマ、一コマが今回のフィリピン代表の参加によって一つの流れとしてつながると共に、歴史的ドラマの影で動いたフィリピン民衆の信仰と勇気が、日本各地で多くの人々に新鮮な感動を与えた。

反マルコスの統一候補が又しても瓦解と思われた時間切れ直前のアキノ大統領とラウレル副大統領との和解、選管女子職員の職務放棄、エンリレ国防相とラモス参謀次長との提携、シン枢機卿による呼びかけなどの背後には、自らを犠牲にして新しいフィリピンの為に尽くした多くの人々の献身があつた。

こうした「人民の力」の原動力でもあつたダンテ・カルマ夫妻は日本人の娘婿も持つて、日比関係の民間外交をも担っている。

## 労働運動の中でのMRA精神

# HAKOZI

箱根

私は、去る一九七九年に東芝労使

代表団の一員として、コーのMRA国際会議に参加しましたが、あれから七年経過した今日に至るも、コーの想いが印象的で、とりわけその時に教わつた「MRA精神」つまり誰が悪いとか、何が悪いかでなく何が正しいのかという考え方が、現在組織のリーダーを務める私自身にとって何かと役立つっており、ついではこの機会に「労働運動の中でのMRA

A精神に関して幾つか事例を挙げてお話ししたいと思います。

一、組織と人間関係

東芝労働組合は、本部を中心に全国三十二支部、組合員六万名で構成されてわが国の民間労働組合の中で、歴史と伝統のある大手企業別組合に位置づけられていますが、それだけに企業と共に、私達の組合運動自体も世間から注目され期待されていると言つても過言ではないと思います。従つて一昨年私は組合の責任者の地位に就いたのを機会に、組合運営の指針としまして第一に「合議」、第二に「信義」、第三に「垂範」、第四に「兄弟」、第五に「寛容」の五つの方針を標榜しました。即ち合議とは、組合役員同士がよく話し合い、納得づくで結論を出して運動を進める。

信義とは、本部、支部間はもとより労使間、外部組合との信頼関係を大事にする。

垂範とは、自分のポジションに責任を持つて、率先垂範の活動に努力

する。

兄事とは、今日の東芝労組を築かれた労使諸先輩に感謝し薫陶、叱正をおおぐ等々を意味していますが、従来にも増して組合の活性化が図られ風通しのよい風土となったと同時に、多くの友誼組合との親交が深まったと考えます。ともあれ、労働組合もまた会社も他の職業も仕事は一人では出来ません。一人一人が持味を發揮しきちんと役割を担い、力を合わせてよい仕事ができるのであつてとくに私達は組織内外ともに人と

の信頼関係を「誠意」をもって大切にする心を心がけています。この運営方針は、絶対正直、純潔、無私愛のMRA精神を参考にして作ったことを率直に申し上げておきます。

### 二、企業経営発展との係り

私達組合は、組合員の雇用を守り、労働条件の維持向上をはかるという本来の使命がありますが、その意味に於いて、会社の発展が根幹であるとの考え方で企業動向に重大な関心を持ちつつ、主体的な研さんと努力を続けています。ことに現在のよう

従業員のために「何が正しいか」という発想によるもので、今後ともこの考え方をベースに誠意をもって企業の発展に努力していきたいと思えます。

### 三、今年の賃金闘争について

日本には春闘というものがありませんが、とくに今年には、経済、産業、企業の環境は大へんきびしい状況にありました。しかし組合は、内需の拡大と生活改善をはかる意味と組合員の期待に応えるため最終的な段階では、経営側の賃上げ水準に對する考え方よりも若干高目の水準を定め、未達の場合はストライキを行使する戦術を確認したのであります。このため経営側は大へん硬化し、6年ぶりにストライキ必至という情勢でありましたが組合としては安定した労働関係の維持や不幸な事態はさけたいとの考え方で、改めて賃上げ水準を検討して円満に解決しました。組織的には問題を残しましたが、「何が正しいか」の判断基準で言えば、正しい決断であったと考えており、このことは全組合員による集約賛成率96%が証明しているといえます。

## 思いやり心の

経済発展や、先進国同士の議論につぐ議論が、第三世界で最も貧しい層の日常生活にどんな影響を与えるというのだろうか。経済の成功の基準は、「貧しい人の数がどれだけ減るか」にあるべきである。途上国への思いやりをどうか忘れないでいただきたい。



ベン・ユウセビオ  
(フィリピン)

# KANSAI

関西

ビル・イエイガー  
(イギリス)

## 自己改革を超えて

自分は、工場だらけの街で貧困の中で育った。現在、世界では五億人が失業し、八億人が貧困と飢えにさらされている。アフリカでは、昭和二十三年以来、対立と内戦が14も起き、レバノンの190回にも及ぶ停戦はいずれも失敗に終わっている。こんな中での今日の栄光は、明日にも崩壊してしまうかもしれない。大きい視野をもち、新しい考え方で対処していく必要がある。MRAがいうのは、**変わる自己**

改革ではない。分裂や汚職をなくして国を変えるための「道徳水準」を提供しているのである。過去に日本で活躍し、後にアメリカに亡命したKGBの工作員が、人の心を捕えるのに、1.金、2.イデオロギー、3.モラルの妥協、4.エゴの四つを使ったと語っている。MRAは、こういった手段に動じない基盤を人と国につくろうとしている。私は「アンチ：」や「……反対」ではなく、建設的な姿勢でなにごとにもぞみたく、そして歴史の流れを変えるためにも、二十一世紀にむかっての人づくりを続けたいと思う。



りをした人を見かけません。幸運な日本女性が立ち上がって、アジアの国々に目をむけ、思いやって下さることを望みます。アジアの女性はとかく家庭や台所に閉じこもりがちですが、一緒にアジアのことを考えていきたいと思います。私は日本の会議に参加しました。

神戸市婦人団体協議会会長

# 信仰と忍耐を持って奇跡を信じよ!

ビクトリア・カルマ (フィリピン)

革命、政権交替の時期は大変でした。予想がつかないうへ死の恐怖にもさらされ、眠れず、食べられずの日が続きました。MRAが教えるように心の声を聞くと、「信仰と忍耐をもって奇跡を信じよ」という考えが浮かびました。戦車があるわかれ、兵士が一般市民に銃をむけ始めた時は、「みんな殺される。」と思いました。そこで一家で教会に行つて祈り、基地で何日もがんばっている人のために

食料を買い集めました。戦車は人垣にはばまれて前進できませんでした。フィリピンの革命成功は、困難を抱えた他のアジア諸国に希望を与えるでしょう。日本では、貧しいみな

## 神の子として生きる

日本生命会長 弘 世 現

36年前に、中曽根現総理をふくむ後の日本の指導者71名とともに、スイスのMRA世界大会に参加しました。暖かい思いやりにつれ、これが本当の人間の姿だなあ、これがあつたら世界も平和になると思いました。そのとき聞いた「おまえも神の子である」という言葉が心に焼きついています。満員電車でも、他の人を先にして自分は最後に乗るようにしています。神の子としてみんなのために仕えることができれば、こんなに幸せなことはありません。どんな商売にも、助けあい、生命を大切にす姿勢で向かうことを学びました。

関経連午餐会にて

れないためにも。夫から感謝され、子供から尊敬され、自分自身も楽しい毎日を過ごしていなかったら、その女性の生き方は間違っています。幸せな世界を築くために、まずは家庭を大切にすることから始めたいと思います。

# 世界の再建はまず家庭から

土井 芳子

夫を太平洋戦争で失つてから、五人の子供を育てるのに大変苦労し、死のうかと思つたことも何度かありました。早く息子を育ててアメリカに敵討ちにやりたいと思つていました。

私に日本に来た理由  
ラルフ・バイバート (英ジャージー島議員)  
円高のときに、遠い日本までお金をかけてやってきたのはなぜかと、けさ考えていました。今、世界の状況は緊迫しており、誰も、どの国も「島国」をきめこんで無関心ではいられません。第二次世界大戦では、わがジャージー島は枢軸国に占領され、日本は連合国から原爆の投下を受けました。しかし、もし充分な数の人が四つの絶対標準を生きぬき、物質主義やエゴに負けずに心の声を聞くことをしたなら、この生き方が家庭を変え、世界を変えると信じています。日本の方がたにもこれに加わっていただきたく、私は日本にまいったのです。

### ●左がバイバート氏







## スタディーコース・レポート

### アジアに向けて 心を開く

北口尚子



私は日本人  
そしてアジア人

オーストラリアのメルボルンにあるMRAパシフィックセンター「アーマ」で、第十二回スタディーコースが三ヶ月間にわたり開催され、私を含めた十一ヶ国十五名の青年男女が参加しました。前半の六週間は小グループにわかれ、毎週与えられる研究課題を討議します。私はオーストラリア・台湾・日本人からなるグループに入りました、そこで与えられた「第二次世界大戦後の日本とその近隣諸国」というテーマをきっかけに、私は日本人であると同時にアジアの一員でもあるという自覚を持ったのでした。MRAで学んでいると、アジアの国々にの人々の心にはいまだにいやされぬ戦争の傷あとが残されていることを思い知らされます。私はこのコースと一緒に参加しているアジアの人々が、日本の戦争責任を私に問うのではないかと不安と恐れを抱いていました。ところが台湾から参加したリュウ氏はそんなそぶりは一切見せず、むしろ日本やアジアの国々にの将来というものを真剣に語ってくれました。私には返すべき言葉がありませんでしたが、アジアの国々にむかつて私の

心のドアが少しずつ開いていくのに気付いたのでした。

前半の六週間が終了すると二つのグループにわかれ、フィールドワークという各都市訪問の旅に出発します。南オーストラリア州の州都アデレードでは心身障害者のためのリハビリスクールを訪れ、校長のカーフマン先生から人間の尊厳について学びました。「誰もが才能を与えられている。そして誰もが何かに秀いでいる。このスクールにいる子供達は、その与えられている才能を引き出す手間と時間が他の子供達より少し余計にかかるのであって、それを助けてあげるのが私達の仕事なので」と言われました。羊飼いが一匹の迷った羊のために、残りの九十九匹を置いてその羊をさがしに行くという話しが聖書の中にあります。それとカーフマン先生の言葉を重ねて考えながら、教育とはこうあるべきではないのかと思ったことです。シドニーへと向かったグループとは、フィールドワーク最後の地、首都キャンベラにて合流しました。ここでは政治家の方々にお会いすることが出来ました。上院下院議員の方(国防相や元教育相等)や地方議員から、オーブンで政党内にこだわらない個人の体験に基づくお話しを

うかがうことが出来、政治に対する関心と理解が深まりました。

問題を生みだす側  
でなく、解答を生み  
出す側は……

そしてスタディコースの終了を迎えました。

過去、スイスのMRA世界大会参加などを通じて知りあつた人達が今回の参加者の半数を占めていたことや、想像もしなかつたオーストラリアでの再会によって、お互いの理解が一層深まり世界がまた身近になつたような気がします。国や個人の様様な立場の違いをこえて、世界に融和をもたらすことが可能であるということを学びました。私達の次のステップは、このコースで学んだことをそれぞれの国や環境に適用し、かつ広げていくことだと思います。問題を作り出す側でなく、解答を生み出す側に自らをおくことです。そしてその鍵は私達が心の声或いは神の声を聞き、それに従っていくという事にあると思うのです。

十四年後の西暦二千年の夏、スイスのコースでの再会を、私達は誓っていました。

# 写真で見る MRAの歴史 NO.1



昭和二十五年、広島、長崎両市長、中曽根康弘氏を含む国会議員七名、石坂泰三氏他経済人、労働組合代表など七十二名がMRA国際チームの招きで、スイスのコーを初め独、仏、英を訪問。世界から孤立していた日本が国際社会に再び迎え入れられる礎となる。当時の吉田首相は「一八七〇年日本の代表が西欧に行き、日本の歴史を変えた。今回の日本の代表がコーに行くことによって、新しい日本を築くことになる」と述べる。写真はコーのキッチンで活躍する日本代表団。

## 事務局近況

●MRA国際会議が終つて一息ついたのもつかの間、事務局は現在コーの大会へ向けての準備に追われていきます。皆さん、八月はスイスでお会いしましょう！

●留学生との交流会が、六月十五日、MRAハウスで開かれました。今回は日本インドネシア文化交流協会の花岡泰次さんからインドネシアのお話しを聞かせて頂きました。

●次回の婦人会、七月十六日(水)午前十時半より、浦和の榊たか子さん宅で行います。お気軽にどうぞ。

## バザーの報告とお礼

今回も多くの方々より、台所用品、食器、日用雑貨品、衣類、シーツ、タオル、食料品など多数ご提供していただくことが出来ました。会場には婦人会有志手作りクッキーやジャム、ケーキ等が可愛らしく飾りつけられ、埼玉から届いた取立てのトマトが春のバザーにふさわしい色どりをそえました。今回の売り上げは三二六四、五二五円でした。純益の一四八、四八五円は、今回のMRA国際会議に海外より参加された方々の滞在費の一部にあてさせていただきます。厚く御礼申し上げます。次回のバザーにも皆様方の一層のご協力を婦人会一同心よりお願い申し上げます。

## これからの行事のご案内

### ●86年度コー大会参加者報告会

今年で40周年を迎えるコーの会議へは、日本からも100名近い方々が行かれます。7月下旬から8月初めにかけて全日本佛教婦人連盟と関西日本スイス協会派遣の中学生の皆さん、8月中旬にはMRAツアー関西グループと浦和グループがそれぞれの会議に参加されます。8月下旬に開かれる日米欧財界人円卓会議には、山下松下電器相談役やキャノンの賀来社長をはじめとする財界人の方々が参加を予定されています。参加された方々の体験談や会議の様子などを聞かせていただく報告会を9月20日(土)午後2時より4時まで、憲政記念館会議室で行ないます。どうぞ御参加下さい。

### ●MRA関西秋期大会

第8回MRA関西秋期大会が神戸市の住友研修所に於て、10月4日(土)から5日まで開催されます。ご家族、ご友人お誘いあわせの上、お気軽にご参加下さい。

### ●チャリティーバザー

次回のチャリティーバザーを、10月頃に計画しています。皆様のご協力をお願いいたします。